

01 技術の進展と行政の変化

技術の進歩は、私たちの暮らしに様々な余裕や豊かさ、便利さをもたらし、今後も技術革新は、暮らしを根本的に変えていく可能性を有している。

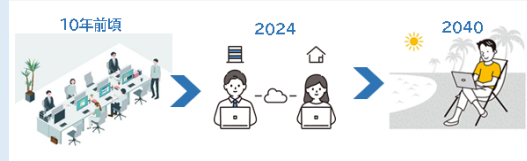
■市民サービス

2040年:すべての手続きがオンライン化



■職員の働き方

2040年:自由に時間や場所を選択できる働き方が浸透



02 行政経営の目指す姿

**社会の変化を变革の転機と捉え、
果敢に挑戦し、市民満足度を高める行政経営**

03 必要な視点

行政経営の目指す姿を実現するために、職員一人ひとりが、3つの視点を強く意識する

スマート行政の実現

*『スマート』という言葉がもつ複合的な意味でのスマート行政を目指します。

- ・職員は、高性能な精鋭集団として生産性を向上する(=賢明・洗練)
- ・社会の変化をすばやく察知し、先回りする(=すばやい)
- ・DXの推進により、さらなる市民サービスの質の向上や業務の効率化を追求する(=成果・効率化)

常に成長を意識する自己変革力の強化

- ・職員は、社会の変化を察知しながら、常に自己啓発・意識改革に取り組む
- ・組織として、社会の変化等に的確かつ迅速に対応できる組織体制を構築する
- ・市民ニーズを把握しつつ、PDCAサイクルの構築による事業のブラッシュアップを行う

未来志向によるポジティブシンキング

- ・バックカスティング思考により、将来を見据えた政策形成を行う
- ・職員は、自身の将来のありたい姿などを思い描き未来に向けてキャリアを積む
- ・社会の変化に対応した働き方を取り入れることで、仕事とプライベートをともに充実させる

04 推進項目と方向性

3つにカテゴライズし、9つの推進項目に整理

職員・組織(ヒト)

- 01** 自ら考え行動できる、多様な人材の確保・育成
- 02** ワーク・ライフ・インテグレーション*の推進
*仕事とプライベートのどちらも人生の構成要素として尊重し、双方を充実させることで相乗的に人生を豊かにしていくという考え方。
- 03** 社会課題に即応できる組織体制の構築

施設・財務
(モノ・カネ)

- 04** 将来を見据えた公共施設の適正配置
- 05** 中長期的な視点に立った財政運営

サービス

- 06** 最新技術やデータの利活用によるサービス向上
- 07** 市民目線に立った相談環境の充実
- 08** ピンポイントかつタイムリーな情報発信と市民ニーズの把握
- 09** 多様な主体との連携

05 プランの位置付け及び計画期間

- 1) 位置付け 第3次佐賀市総合計画を踏まえて策定
- 2) 計画期間 修正の必要が生じた場合は、随時見直す

06 取組の進行管理と公表

- 1) 進行管理 アクションプラン(R7~10)を策定し、KPIを設定して進捗を管理
- 2) 公表 ホームページ等を通じて公表